

## 組織拡大を前進させるため、取り組み事例や課題を共有！ —「2023年度組織拡大実務者研修会」を開催—



組織拡大の取り組みは、連合鳥取としても、最重要課題の一つとして取り組みを行っています。そのような中、この度の研修会は、大変有意義な研修会となりました。

**テーマ**  
・組織拡大の取り組み状況  
・企業内未組織労働者の組織化における課題  
・課題解決に向けた取り組み  
・組織拡大に関して学びたいこと

参加者は、①オープンショップ、②ユニオンショップ、③公務グループを基本に8グループに分かれ、組織拡大に向けた取り組み状況や課題共有などについて意見交換を行いました。久々のグループワークで、同じ形態の労働組合同志で積極的に意見が交わされ、各グループの発表でも、次回の開催に向けて前向きな発言がありました。

**グループワーク**  
連合鳥取の河村正之副事務局長から、労働組合組織率の算出方法や「従業員過半数代表」の意義と役割などを学びました。

**組織拡大基礎研修**  
発表者③自治労鳥取県本部 櫃田範道さん  
①オープンショップ、②ユニオンショップ、  
③公務の各グループを代表して3人から、  
パート従業員や嘱託職員、契約職員、再雇用者の組合員化など、組織拡大に関する取り組み事例の報告を受けました。

**産別事例報告**  
発表者①紙パ連合・丸彦産業労働組合 細田雅志さん  
発表者②電機連合・FDK労働組合 寺垣嘉則さん

連合鳥取は、7月8日(土)、鳥取県立倉吉体育文化会館において、「2023年度組織拡大実務者研修会」を開催し、16産別31単組から43人の組織拡大実務者と連合鳥取役員職員8人が参加しました。研修会では、産別事例報告、組織拡大基礎研修とグループワークを行いました。

### 参加者の声

**自治労鳥取県本部 松田陽子さん**  
私は自治労組織拡大専門員として、非正規職員担当をしている。かつては自治体の非正規職員として勤務しており、他産別のみなさんの非正規組織化への取り組みを学ばせていただくために参加した。分散会では、「非正規の方に「組合の必要性」を伝える難しさはどこも一緒だなあ～」と感じる一方、積極的に当事者と関わることで組織強化の成果が上がっている事例もあり、「私も負けられない」と決意を新たにしました。組織拡大・組織強化めざしともにがんばりましょう。

**UAゼンセングッドヒル労働組合 目春 淳さん**  
自分は今まで組織拡大について深く考えていなかったことを実感した。  
【産別事例報告】電機連合FDK労組の「再雇用者の組合員化」取り組みに、同じユニオンショップでもあり共感し感銘を受けた。組合費や組合への加入に対するメリットの部分など検討事項はあるが、弊労組でも今後取り組みまなければならない課題であると感じた。  
【グループワーク】各企業でも同じような課題が浮かび上がり、当社だけの問題ではないと感じることができ有意義な研修となった。

# 「労働政策セミナー・政策討論集会」を開催



7月1日(土)、鳥取市民会館に産別・単組役員・組合員108人(うち女性17人:女性参画率15.7%)と連合鳥取推薦議員14人が参加し、「2023労働政策セミナー・政策討論集会」を開催しました。

主催者を代表して、山崎睦会長代行から「要求を実現するために、わたしたちと同じ目線で、働く者・生活者の立場に立つ推薦議員団のみなさんと県・市・町それぞれの立場で政策・制度要求を共有することが重要」とあいさつがあり、続く、推薦議員団あいさつでは湯原俊二衆議院議員から国政報告がありました。



労働政策セミナーの様子

【労働政策セミナー】 講演 「『聴く力』と『語る力』」

講師/新日本海新聞社 執行役員論説委員長兼読者室長 深田 巧さん(写真上)

5つのテーマに沿って、ご自身が書かれた記事を基に講演いただきました。

「読者室」というのは県でいう県民の声を聴くところと説明され、事件が発生した場合、その被害者家族と何時間にも亘り、聴き、語り、真摯に向き合っておられる姿に、事実を伝えることの重要性和責任を改めて考えるきっかけとなりました。

【政策討論集会】 産別からの要望についてとりまとめた「2024年度政策・制度要求」40項目について、江口真也事務局長と各政策責任者6人から提起と趣旨の説明後、参加者との討論を行いました。

討論内容を基に補強を行い、「第8回(拡大)執行委員会(2023.7.27)」で確認し、7月31日(月)、鳥取県の平井知事に要求し、その後各担当部局との交渉を予定しています。

【集会まとめ～団結がんばろう】 細砂直労働政策局長の「発信する『語る力』」の前の、収集する『聞く力』を大切に、政策・制度要求を完成させる」との集会まとめで締めくり、最後に山崎会長代行による「団結がんばろう!」で終了しました。

※テーマ

- ①大阪日日新聞と私
- ②義足女子会に出会って
- ③取材テーマは子育て、孤独、シティズンシップ・・・
- ④読者室の仕事
- ⑤連合鳥取に寄せて



要求(案)を説明する政策責任者



団結がんばろう! 写真上/山崎会長代行

## 誰もが暮らしやすい鳥取県・働きやすい職場環境をめざして —県内4市に「雇用と生活における男女平等」に関する要請を実施—

第2弾

連合鳥取は、だれもが個性や能力を発揮できるジェンダー平等の実現に向けて、すべての労働者の就業環境の整備と待遇改善に努めています。

そこで、鳥取市、倉吉市、米子市、境港市の各市長を訪問し、下記3項目について要望書を手交し、意見交換を行いました。

- 【要望項目】
1. 雇用創出と生活困窮者への支援
  2. 仕事と不妊治療が両立できる就業環境の整備
  3. 女性の活躍とジェンダー平等で多様性を認め合う社会の実現



■江口事務局長あいさつ(抜粋) コロナ禍により、より弱い立場の人へのしわ寄せが顕在化した。

また、多様な性が理解されずに、生き苦しさをを感じる人たちが安心して暮らせるように、市行政として制度に対する住民の理解や普及の促進をお願いしたい。

要請先・要請日・場所	連合鳥取参加者	手交・意見交換対応	市長・政策部長発言(抜粋)
鳥取市 7月12日(水) 鳥取市役所	・江口真也事務局長 ・村尾昌彦東部地協議長 ・寺田真里副事務局長 ・河村正之副事務局長 ・吉田 正副事務局長(東部地協議事務局長)	深澤義彦鳥取市長 ・人権政策局長 ・男女共同参画課課長 ・男女共同参画課課長補佐	鳥取市は2021年3月に第4次鳥取市男女平等かがやきプランを策定しており、今後も連合鳥取の活動に賛同し取り組んでいきたい。 多様な性を認め合う社会づくりについては、現実とかけ離れたものではなく、対象者に寄り添って実体に沿う取り組みとなるよう進めていきたい。
倉吉市 7月6日(木) 倉吉市役所	・江口真也事務局長 ・盛山 修中部地協議長 ・寺田真里副事務局長 ・河村正之副事務局長	広田一恭倉吉市長 ・健康福祉子ども家庭課課長 ・ // 福祉課長 ・総務部職員課長 ・市民生活部人権政策課長	既に取り組んでいるものもあるが、不妊治療に関しては、中には産婦人科が少ないこともありご不便をかけている。今後、医師会への働きかけも行っていく。 同性パートナーシップ制度については、倉吉市としても、対象者に寄り添い不利益のない対応を図っていきたい。
米子市 7月19日(水) 米子市役所	・江口真也事務局長 ・寺田真里副事務局長 ・河村正之副事務局長 ・遠藤史章副事務局長(西部地協議事務局長)	八幡泰治総合政策部長 ・総合政策次長	多岐にわたり、それぞれの課において取り組んでいる。役所だけで一方的に決めつけることなく、個と行政、みんなで話し合いながら連携していきたい。
境港市 7月18日(火) 境港市役所	・江口真也事務局長 ・寺田真里副事務局長 ・河村正之副事務局長 ・遠藤史章副事務局長(西部地協議事務局長)	伊達憲太郎境港市長 ・総務部長 ・総合政策課長 ・人権推進室長	困っている人の声を拾うのは行政の仕事であり、一番大事なことは、個々に合わせることで。市民が市民のために行う活動をどんどん広げていきたい。 <意見交換で取り組み事例を紹介> ・商工会議所とタイアップした取り組み ・全小学校に「みんなのトイレ」の設置など



### 第50回衆議院議員選挙(鳥取県第2選挙区) 推薦決定

連合鳥取は、「2023労働政策セミナー・政策討論集会」同日に臨時執行委員会を開催し、第50回衆議院議員選挙における湯原俊二衆議院議員の推薦決定し、連合本部に上申しました。

7月21日(金)の連合本部推薦決定を受け、7月27日(木)、「第8回(拡大)執行委員会」において推薦状を手交しました。

湯原 俊二(ゆはら しゅんじ)さん (60歳/衆議院議員(2期目)/立憲民主党)(2023年8月時点の年齢/経歴/推薦依頼組織)



湯原俊二さん(右)に芳野友子連合会長からの推薦状を手交する山崎会長代行(左)

### 中部地協発/なぜ労働組合が政治に関わるのか -「政治学習会」を開催-

中部地域協議会は7月7日(金)、倉吉体育文化会館において、構成産別から53人(うち女性12人)の組合員と連合鳥取推薦議員6人の参加を得て、「政治学習会」を開催しました。

盛山修議長が「国政・県政課題や現在の状況を通して、政治が私たちの生活を大きく左右していることや、労働組合が政治に関わる意義を再認識する場としていただきたい」との開会あいさつを行いました。

その後、県政の状況を鳥取県議会「会派民主」会長の興治英夫(おきはるひでお)鳥取県議会議員から、国政の状況について湯原俊二衆議院議員からそれぞれ報告いただきました。



会場の様子

また、その後の質疑応答で、公共交通機関の「障がい者割引制度」や、国の「牛豚肥育交付金」について質問が出されました。

今回の学習会を通して、「私たちの生活のあらゆる場面に『政治』が関わっていること」、「普段の生活に関わるいろいろな困りごとをまずは『連合鳥取推薦議員』に言ってみる」ということが大切だと再認識するよい機会になりました。



興治英夫鳥取県議会議員(会派民主会長)



湯原俊二衆議院議員

### 西部地協発/ブラック企業と闘う労働組合の力 -「第8期労働大学」で学ぶ-



まとめのあいさつをする遠藤史章事務局長

西部地域協議会は7月7日(金)、米子コンベンションセンターにて「第8期労働大学」を開催し、構成産別から28人(うち女性7人)の参加があり、土屋トカチ監督の労働ムービー「アリ地獄天国」を鑑賞しました。

映画は、ユニオンに加盟した労働者がブラック企業の違法行為、差別、不当労働行為に立ち向かい、最終的には労働委員会で勝利に近い和解を勝ち取るドキュメンタリーです。「たかが金や仕事のために死ぬな、殺すな」という監督のメッセージは参加者の心を捉えたはずです。労働法規や労働組合の重要性も映画を通じてまなびあいました。

### 女性委員会発/食の安心・安全について学ぶ -「産別交流会」に37人参加-



女性委員会委員長あいさつ写真上/小谷くみこ委員長

女性委員会は7月22日(土)、琴浦町にある大山乳業農業協同組合(構成産別/フード連合)において「産別交流会」を開催しました。

はじめに、大山乳業の担当者から「安心・安全な商品づくり」についての説明を受け、PRビデオを視聴しました。新鮮な生乳を酪農家との連携により迅速に生産ラインに投入し、徹底した品質管理のもと製造、販売を行うことで、とても美味しい牛乳や乳製品が作られていることがよく分かりました。こうした努力のおかげで、我が家でも大好きな白バラ牛乳やヨーグルトが食べられるのかと感動しました。

次に工場見学をしました。おなじみの乳製品が次々とできあがっていく様子に見入ってしまいました。昔、学生時代に給食で飲んでいた三角パックの牛乳(年齢が分かっていますが)のパッケージの展示もあり懐かしかったです。

その後、7班に分かれてバターづくりをしました。各自、生クリーム50ccを密閉容器に入れ、15分位ひたすら振り続けるとバターができました。白バラ牛乳と、できたてのバターをパンにつけて食べ、とってもおいしかったです。

短時間でしたが、作業中メンバーで励まし合ったり、状態を比べ合ったりと、みなさん笑顔でとても楽しい交流会となりました。

(寄稿 女性委員会幹事 河中久美さん)



バターづくりの様子



参加者全員で記念撮影

### 自治労・全水道のキャラバン隊が「水道水源の保全に関する要請行動」を実施



深澤義彦鳥取市長(左)に要請書を手交する和泉執行委員長

7月19日(水)～20日(木)、全水道山陰地区本部の和泉綱樹執行委員長と自治労鳥取県本部の山口一樹執行委員長を中心にキャラバン隊を組み、水道水源の保全に関する要請行動を実施しました。

19日には鳥取県知事・鳥取市長・倉吉市長へ、20日には米子市長へ要請書を提出し、同時に各地の駅周辺では、新型コロナウイルス感染症の行動制限が緩和されたことで約4年ぶりに街宣行動を実施しました。

水道事業では、安全でおいしい水をいつまでも豊富に安定供給するためには、水源地域の自然環境保全と共に河川の水質保全対策が必要なことや、地方公共団体の責務として、水道水源の水質保全及び監視・指導はもとより、清浄な流水を確保するための水源涵養林の確保と保護・育成について、対処していかなければならない課題であると説明しました。

また、近年、激甚化している自然災害の対策なども併せた全18項目について、環境行政等の当事者として具体的な施策が講じられるよう要請しました。

例年実施している水政策要請行動ですが、行政だけではなく、街宣行動を実施することで市民の方も一緒に「水の大切さ」を考えていただく良い機会となり、今後も継続していくことで、水環境が少しずつでも改善されることを期待しています。

(寄稿 全水道山陰地区本部鳥取支部書記長 山本昌明さん)



### “ザ・議員”

#### あ だ ち た か し 足立 考史 鳥取市議会議員

日頃より多大なるご支援をいただき感謝申し上げます。本年3月議会では、市民からの声として、昨年9月議会においても質問した「ペットボトル収集日の散乱問題の対策」について引き続き取り上げました。

検討されていたペットボトル収集が毎週1回となり、さらに白色トレイは「プラゴミ」として一括収集するなど負担軽減となりました。

また、今後は、本年10月開始予定の大型ごみ受付センターの集約とオンラインシステムの導入により、24時間対応とキャッシュレス決済が可能になったり、発火性のあるゴミを有害ごみとする分別収集の来年度からの実施に向けて、利便性向上と循環型社会の一層の取り組みを図っていくとの回答がありました。



6月議会で質問 (2023.6.27)

#### ふ く い や す お 福井 康夫 倉吉市議会議員

－6月議会報告－

「働くことを軸とする安心社会の実現」は、果たして市役所の職場環境でできているのか？

今、現場では心身の故障による分限休職者は二桁まで増加してきています。令和4年度実施の「ストレスチェック」の結果における高ストレス者の割合も、正職員で2割となってきました。

そのため、外部相談窓口の設置をはじめ、ラインケア(管理監督者が主体のメンタルヘルス対策)の充実や、EPA(従業員支援プログラム)の導入の必要性について市長に質してきました。

また、スクールバスの混乗化実証実験の導入に向けた取り組みの中で、引き続きお年寄りや子どもたちに寄り添い、日々の暮らしが何よりも安心して暮らせる街づくりと、地域の伝統・文化を活かしながら、夢と希望、そして安らぎの市政に向けて追及していきます。

連合のみなさまの引き続きのご支援をお願いいたします！



### てんじんこらむ

連合鳥取組合員の減少に歯止めがかからない。2024年度に向けた組織人員実態調査では昨年より400人減の24,000人となった。連合鳥取結成時(1990年)は34,000人。毎年厚労省が調査する労働組合基礎調査の組織率も1940年代後半には50%を超えていたが、直近では16.5%と減少傾向だ。鳥取県は14%。ほぼ労働組合がない。非正規労働者に限ると1.4%に過ぎない。組織拡大には非正規労働者の加入が必要なのは間違いない▼組織率低下の理由は非正規労働者の増加である。法律改正(労働者派遣法)により、企業は人件費抑制のため非正規従業員を増やし、正規従業員の仕事を振り分けた。業績悪化により1990年代、2000年代、2010年の3回にわたりリストラ旋風が起こり、多くの労働者が職を失った。県内企業もリストラ旋風の影響に翻弄され、連合鳥取組合員が減少してきた▼今一度「労働組合」とは何か、集团的労使関係の重要性について考えたい。労働組合とは、労働者が自らの仕事や暮

しの質や条件を維持、改善することを目的として自主的に組織した民主的な団体である。▼労働組合がないと使用者の無理な指示もまかり通る可能性がある。労働者側より使用者側が有利である。労働者は使用者に労働を提供し生活費を得る。働く場がなくなれば生活できなくなり路頭に迷う。賃金の見直しがあつたとき、労働組合がないと会社提示の条件にそのまま従うこととなるが、労働組合があれば労使協議、団体交渉し解決することができる。労働組合の存在意義は大きい▼労働組合は仲間とともに労働条件の向上をめざして行動してきた。だが、現在は「自分が良ければ他人には干渉しない」という風潮が芽生え、「他人のために自分が何かをする必要はない」という考えを持つ人も増えている▼労働組合本来の責務である「労働条件の維持向上」と「雇用保障機能」を確保し、組合員に寄り添う運動を推進しなければ組織は衰退していく▼政治の世界と同様、「数は力なり」。仲間を増やすため、まずは足元(自組織の未加入者)の組織化を！ (まさ)

